

The Bodyshop Network
 ヤナセ ザ・ボディショップ ネットワーク
 技術大会2014

ヤナセオートシステムズ YANASE The Bodyshop Network技術大会2014特集

「板金」「塗装」磨き抜いた技術を存分に

正確な手順 高い修理品質競う 全国の内製工場から精鋭18人

ヤナセオートシステムズ(菊池正幸社長、東京都港区)は1日、BPセンター横浜(横浜市都筑区)で「ヤナセザ・ボディショップネットワーク技術大会2014」を初めて開催した。全国9拠点にある、内製工場から板金・塗装各1人ずつ18人が出場し、実技と筆記で競い合った。その結果、BPセンター三郷が板金、塗装、チームのすべてにおいて1位を獲得した。



菊池 正幸社長の言葉



「当社はヤナセオートシステムズとして、2011年4月にスタートを切った修理品質と修理技能を徹底し、お客さまに安心と安全を提供してきた。そして安全を担う内製工場を擁する。クルマの技術は常に進化し続けている。板金塗装は手作業が避けられない。お客さまに満足していただくためには、皆さんの腕の成長が不可欠。今日は日頃の成果を惜しみなく発揮し、全力で臨んでいただきたい」

お客さまに安心と安全を



水性の扱いやすさ立証
 総務に立つたBP統括部西日本B営業部の原秀行部長は「言外に水性化を促している。BPセンター三郷が最優秀賞になったのは水性の扱いやすさや立証された。内製工場全面水性化に向けて、取り組んでいく」と塗装部門で一定の成果が出たことを評価。一方で、塗装メカニクスによって調色回数やパレットの交換、上塗り時のシューティングの有無、ホコリに対する

経験やカンだけでは
 自動車の車体は、車両の安全と軽量化による燃費向上のため、アルミニウムや超高張力鋼板の採用が加速している。また、環境対応の観点から水性塗料の導入、マット塗装、耐腐蝕性クリアなど高機能塗料の採用も必要とされている。こうした状況下で、事故修理など

各部門の入賞者(敬称略)
 ▽チーム部門=最優秀賞・BPセンター三郷(森本徹・須田有一) 優秀賞・BPセンター茨木(静憲一・岡平拓也) 敢闘賞・BPセンター岡山(岡井良太・西郷隆裕)
 ▽板金部門=1位・森本徹(三郷)、2位・岡井良太(岡山)、3位・渡辺崇(小牧)
 ▽塗装部門=1位・須田有一(三郷)、2位・岡平拓也(茨木)、3位・太田敬二(福岡)

経験やカンだけでは
 今回の技術大会は、内製工場から選抜された精鋭18人が出場し、実技と筆記で競い合った。板金部門の実技審査はメルセデス・ベンツのCLA右リアフェンダーのバルクを使用。プレスラント部の凹みをハンマーとドリルでいかに復元するかを審査する。ハンマリング競技として、バルク交換時の切り継ぎ箇所の隙間を平自動溶接機を溶接し、溶接の状態、熱によるバルクへの影響度合い(歪み)を審査する。「溶接機」を実施した。見所として、溶接機ではバルクの厚さ溶接機に流す電流

チーム賞 最優秀賞
 BPセンター三郷(尾形謙介所長)
 値と電圧値の調整、溶接ワイヤの供給スピードのセッティングなど、ハンマリング競技ではオンドリル作業、オフドリル作業の音の違い、競技によって違うハンマーの使い方などが挙げられた。塗装部門は「調色競技」と「上塗り競技」で構成。メルセデス・ベンツのAクラスセレス(W168)ボンネットのパネルを使用した。競技時間は溶剤系塗料が70分、通常業務で水性塗料を使用している三郷と茨木に比べては水性塗料を使用し、時間は90分に設定。

1位独占! BPセンター三郷

不利な条件克服できた
 「信じられない気持ちでいっぱいだった。わたしたち個人ではなく、三郷としていただいた賞だと思っている。本当にうれしく思う。実技そのものよりも、大勢の人に見られる作業だったため、おそろしく緊張した。良い経験になったと思う」
 三郷は2012年に溶剤塗料から水性塗料に切り替えを行った。溶剤での作業に慣れていたが、移行前は、水性には不利な条件だったが、集中して作業に臨んだ。気温自体は低かったが、作業中は汗だくになってしまった。今回、最優秀賞を受賞したことで自分のスキルに自信を持つことができたし、今までの努力が認められたと感じた。
 日頃の業務では、塗装に関する一連の工程をスタッフ全員が交代で担当している。チームワークが必要な仕事だが、職場がとてもフレンドリーなため、効率的に作業できていくと思う。新しいことを学ぶのにも最適な。
 勝利の喜びを、まずは職場のみんなに伝えたい。近くで見守ってくれていた尾形所長にも本当に感謝している。みんながいてこそ勝利だと思っている。
 また、支えてくれた家族にもありがとう伝えたい。以前息子が体操の賞をもらった時に自慢していたため、今回は私が息子にこの賞を自慢したいと思う。良い報告をすることができてうれしい」

塗装部門 1位
須田 有一さん
 (BPセンター三郷)

常に向上心持って作業
 「名前を呼ばれた時は、喜びよりも驚きの方が大きかった。もう少ししたら優勝した実感が湧いてきて、うれしさがこみ上げてくると思う。このトロフィーは私一人ではなく、職場のみんなの力があって勝ち取ったものだ。本当に感謝している」
 自分自身、現状に満足せず、常に向上心を持つよう心がけてきた。日頃の業務でも『この作業にかかる時間を短くすればもっと早くできるのでは』など、考えながら仕事をしている。私は少し我流のところがあったため、所長や同僚にアドバイスをもらいながら矯正していった。また、大会前には、仕事後にファミリーレストランなどで勉強もしていた。妻や家族がサポートしてくれたため、大会に集中することができたと思う。家に帰ったら、妻にお礼と『迷惑をかけてごめんね』と謝りたい。
 私たちの役割は、お客さまのクルマをできる限り新車の状態に戻すこと。クレームを出さないことはもちろん、第三者がどのような印象を持つかを常に意識して作業することが必要だ。勝因を挙げるとすれば、この意識の持ち方にあると思う。今回の競技で使用したメルセデス・ベンツのCLAクラスは実作業では経験がなかった。そのため、作業中は少し不安もあったが、結果的には上手かったと思う。普及が進んでいる高張力鋼板を使用した車両は、例えるなら生き物だ。表面が動き回ると、とてもデリケートにできている。技術の進化に対応できるように、これからも腕を磨いていきたい」

板金部門 1位
森本 徹さん
 (BPセンター三郷)

努力の積み重ねが形に
 「本当にうれしい。二人が今まで積み重ねてきたことが、今日実を結んだのだと思う。素晴らしいスタッフを持つことができて誇らしい。私が三郷の所長になったのは2カ月前。以前は他の拠点に勤めており、赴任してまだ日は浅いが、この拠点のスタッフの仕事に対する姿勢には本当に感心している。入社時からの知り合いが多いことも思うが仲がよく、チームワークがとても良い。職場自体は和気あいあいとした雰囲気なのだが、仕事では全員が自分の作業に没頭しており、集中がこちらまで伝わってくる。メリハリがついている素晴らしい職場環境だと思う。二人は私たちの拠点を代表するスタッフだ。大会前も、技術的なことはもちろん、学術の勉強にも真剣に取り組んでいた。森本さんは日頃から仕事熱心で、常に向上心を持ちながら取り組んでいる。彼の努力の積み重ねが今日の結果を導いたのだと思う。雨で水性に不利な天候でありながら優勝した須田さんは見事だった。彼の技術の高さが証明されたと思う。二人の努力を知っていたからこそ、絶対に勝ってほしいと願っていたし、実際に壇上に立った姿を見たときは喜びでいっぱいだった。今日の二人の勇姿を、職場に帰ったら全スタッフに伝えたい。ただ、これで終わりではない、まだまだ上を目指せると思う。これからも、全スタッフで会社を盛り上げ、お客さまに最高の品質とサービスを提供していきたい」

チーム賞 最優秀賞
BPセンター三郷
 (尾形謙介所長)